

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月10日

【四半期会計期間】 第113期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

【会社名】 新興プランテック株式会社

【英訳名】 Shinko Plantech Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉川善治

【本店の所在の場所】 横浜市磯子区新磯子町27番地5

【電話番号】 045(758)1950

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部所管 総務・人事部長 福久正毅

【最寄りの連絡場所】 横浜市磯子区新磯子町27番地5

【電話番号】 045(758)1950

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営企画部所管 総務・人事部長 福久正毅

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第112期 第3四半期 連結累計期間 | 第113期 第3四半期 連結累計期間 | 第112期 |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日 | 自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日 | 自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日 |
| 完成工事高 (千円) | 59,682,182 | 70,124,505 | 89,491,193 |
| 経常利益 (千円) | 4,076,699 | 5,833,295 | 6,591,971 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円) | 2,307,518 | 3,798,249 | 3,897,429 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 2,638,837 | 4,504,693 | 3,191,013 |
| 純資産額 (千円) | 36,677,102 | 40,344,888 | 37,229,222 |
| 総資産額 (千円) | 69,005,012 | 79,957,676 | 72,319,562 |
| 1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | 49.92 | 82.16 | 84.31 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | | | |
| 自己資本比率 (%) | 52.4 | 49.7 | 50.7 |

| 回次 | 第112期 第3四半期 連結会計期間 | 第113期 第3四半期 連結会計期間 |
|-----------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日 | 自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 15.01 | 35.80 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）におけるわが国経済は、企業収益や設備投資の改善に足踏みがみられましたが、全体的には緩やかな回復基調の中で推移しました。

海外経済では中国をはじめとするアジア新興国に景気の持ち直しの動きが見られるものの、イギリスのEU離脱問題、韓国の政権交代、アメリカの新政権の発足などの不確実性の中で、経済の先行きに対する不透明感が一段と高まりました。

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、石油・石油化学業界では、石油業界再編・統合に向けてより強固な経営基盤を構築するため、合理化・効率化・コスト削減に向けた取り組みの中でメンテナンス投資および新規設備投資に対しては強弱をつけた対応が行われています。

このような中、当期（平成29年3月期）は繁忙期にあたる定期修理工事ならびにプラント強靱化対策工事、精製能力の削減や設備廃止に伴う改造・改修工事、コンビナート連携による新投資工事、競争力のある製品生産のための新規プラント建設工事などの受注確保と、損益面においては、人手不足や労務単価の上昇圧力の環境下で、収益管理の徹底により直接・間接コストの圧縮に当社グループをあげて継続的に努めてまいりました。この結果、定期修理工事が想定以上に増加したことによる完成工事高の増加に加え、損益面においては、完成工事高増加に伴う稼働率の向上と収益管理の徹底による工事収益が改善し、利益が増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間における業績につきましては、受注高は前年同期比7.1%増の70,290,610千円となり、完成工事高は前年同期比17.5%増の70,124,505千円となりました。また、営業利益は5,708,040千円（前年同期比34.2%増）、経常利益は5,833,295千円（前年同期比43.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,798,249千円（前年同期比64.6%増）となっております。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、79,957,676千円で前連結会計年度末より、7,638,114千円増加しました。これは、現金及び預金が9,044,710千円、有価証券が2,999,880千円減少する一方、受取手形・完成工事未収入金が11,116,928千円、未成工事支出金が7,985,259千円増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、39,612,787千円で前連結会計年度末より、4,522,447千円増加しました。これは、支払手形・工事未払金が9,782,622千円減少する一方、電子記録債務が14,386,089千円増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、40,344,888千円で前連結会計年度末より、3,115,666千円増加しました。これは、利益剰余金が2,411,413千円、その他有価証券評価差額金が674,018千円増加したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は50,885千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 160,000,000 |
| 計 | 160,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年12月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成29年2月10日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|---------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 46,310,892 | 同左 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 単元株式数は 100株であります。 |
| 計 | 46,310,892 | 同左 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成28年10月1日～ 平成28年12月31日 | | 46,310,892 | | 2,754,473 | | 1,372,023 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 83,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 46,196,600 | 461,966 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 31,292 | | 1単元(100株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 46,310,892 | | |
| 総株主の議決権 | | 461,966 | |

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式2,000株(議決権20個)含まれております。
 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|--------------------------|-----------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 新興プランテック株式会社 | 横浜市磯子区新磯子町27番地5 | 83,000 | | 83,000 | 0.18 |
| 計 | | 83,000 | | 83,000 | 0.18 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和14年建設省令第14号)に準じて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 16,812,941 | 7,768,231 |
| 受取手形・完成工事未収入金 | 28,936,460 | 40,053,389 |
| 有価証券 | 2,999,880 | - |
| 未成工事支出金 | 6,875,767 | 14,861,027 |
| 繰延税金資産 | 536,187 | 360,690 |
| その他 | 445,359 | 382,156 |
| 貸倒引当金 | 16,428 | 22,978 |
| 流動資産合計 | 56,590,169 | 63,402,516 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 2,653,355 | 2,914,664 |
| 土地 | 7,431,094 | 7,401,171 |
| その他（純額） | 851,719 | 833,765 |
| 有形固定資産合計 | 10,936,170 | 11,149,601 |
| 無形固定資産 | 164,131 | 172,008 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 3,869,569 | 4,738,803 |
| 長期前払費用 | 8,180 | 9,944 |
| 繰延税金資産 | 551,766 | 283,689 |
| その他 | 260,280 | 265,180 |
| 貸倒引当金 | 60,706 | 64,068 |
| 投資その他の資産合計 | 4,629,090 | 5,233,550 |
| 固定資産合計 | 15,729,392 | 16,555,160 |
| 資産合計 | 72,319,562 | 79,957,676 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金 | 26,036,202 | 16,253,580 |
| 電子記録債務 | 1,294,061 | 15,680,150 |
| 短期借入金 | 258,569 | 253,214 |
| 未払法人税等 | 1,340,529 | 629,901 |
| 未成工事受入金 | 649,124 | 905,399 |
| 工事損失引当金 | 62,900 | 320,200 |
| 完成工事補償引当金 | 7,750 | 21,640 |
| 賞与引当金 | 864,678 | 314,364 |
| 役員賞与引当金 | 3,600 | 3,000 |
| その他 | 1,816,634 | 2,544,549 |
| 流動負債合計 | 32,334,050 | 36,925,999 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 165,125 | 138,956 |
| 繰延税金負債 | - | 50,292 |
| 役員退職慰労引当金 | 88,568 | 85,044 |
| 退職給付に係る負債 | 2,324,050 | 2,230,969 |
| その他 | 178,546 | 181,526 |
| 固定負債合計 | 2,756,289 | 2,686,788 |
| 負債合計 | 35,090,339 | 39,612,787 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,754,473 | 2,754,473 |
| 資本剰余金 | 1,688,884 | 1,688,884 |
| 利益剰余金 | 32,376,597 | 34,788,011 |
| 自己株式 | 39,369 | 39,559 |
| 株主資本合計 | 36,780,585 | 39,191,809 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 493,180 | 1,167,199 |
| 為替換算調整勘定 | 42,725 | 134,796 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 561,145 | 497,730 |
| その他の包括利益累計額合計 | 110,690 | 534,671 |
| 非支配株主持分 | 559,326 | 618,407 |
| 純資産合計 | 37,229,222 | 40,344,888 |
| 負債純資産合計 | 72,319,562 | 79,957,676 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

| | (単位：千円) | |
|------------------|--|--|
| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) |
| 完成工事高 | 59,682,182 | 70,124,505 |
| 完成工事原価 | 52,787,565 | 61,639,854 |
| 完成工事総利益 | 6,894,617 | 8,484,651 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,640,345 | 2,776,610 |
| 営業利益 | 4,254,271 | 5,708,040 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 6,733 | 3,472 |
| 受取配当金 | 83,370 | 94,342 |
| 受取賃貸料 | 114,209 | 87,795 |
| その他 | 29,750 | 63,491 |
| 営業外収益合計 | 234,065 | 249,101 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 16,414 | 14,666 |
| 売上割引 | 79,731 | 42,218 |
| 為替差損 | 276,536 | 28,971 |
| その他 | 38,954 | 37,989 |
| 営業外費用合計 | 411,637 | 123,846 |
| 経常利益 | 4,076,699 | 5,833,295 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 369 | 1,404 |
| 投資有価証券売却益 | - | 15,280 |
| 特別利益合計 | 369 | 16,684 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 108 | 689 |
| 固定資産除却損 | 795 | 2,077 |
| 減損損失 | 135,503 | 45,819 |
| ゴルフ会員権評価損 | 1,050 | - |
| 特別損失合計 | 137,457 | 48,586 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 3,939,612 | 5,801,393 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,351,640 | 1,768,924 |
| 法人税等調整額 | 215,104 | 173,836 |
| 法人税等合計 | 1,566,745 | 1,942,760 |
| 四半期純利益 | 2,372,867 | 3,858,632 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 65,348 | 60,382 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,307,518 | 3,798,249 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 2,372,867 | 3,858,632 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 8,949 | 674,716 |
| 為替換算調整勘定 | 197,601 | 92,071 |
| 退職給付に係る調整額 | 59,419 | 63,415 |
| その他の包括利益合計 | 265,970 | 646,060 |
| 四半期包括利益 | 2,638,837 | 4,504,693 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 2,574,620 | 4,443,612 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 64,216 | 61,081 |

【注記事項】

(会計方針の変更等)

| |
|--|
| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
| (会計方針の変更) 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物付属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。 なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。 |

(追加情報)

| |
|--|
| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
| 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
|--|--|
| 減価償却費 316,447千円 | 減価償却費 312,913千円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成27年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,386,865 | 30 | 平成27年3月31日 | 平成27年6月25日 | 利益剰余金 |

- 2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成28年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,386,836 | 30 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月27日 | 利益剰余金 |

- 2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当連結グループは、報告セグメントがエンジニアリング業のみであり、当連結グループの業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、「その他」は不動産の賃貸、保険代理店業務などがあります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

当連結グループは、報告セグメントがエンジニアリング業のみであり、当連結グループの業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、「その他」は不動産の賃貸、保険代理店業務などがあります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
|---------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益 | 49円92銭 | 82円16銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円) | 2,307,518 | 3,798,249 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円) | 2,307,518 | 3,798,249 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 46,228,453 | 46,227,782 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月10日

新興プランテック株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | | | | | |
|--------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 岸 | 洋 | 平 | 印 | |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 藤 | 田 | 建 | 二 | 印 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新興プランテック株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新興プランテック株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。